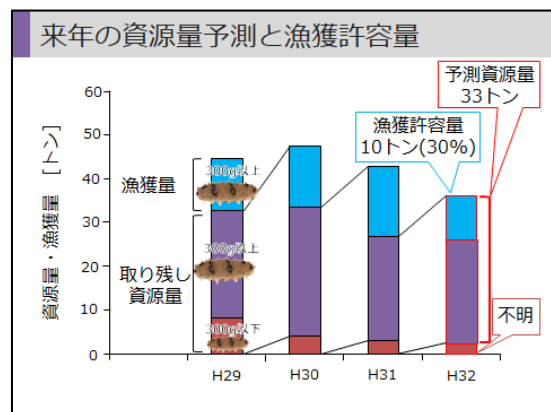


## 宮津湾マナマコ漁業に新たな資源管理手法を提案

宮津湾では、乱獲によって減少してしまったナマコ資源の復活に向けて、当センター、漁業者および京都大学の共同研究により、漁獲量規制やサイズ規制などの資源管理を平成25年頃から実施しており、その効果も現れています。

今年の漁期終了直後(4月)に行った調査の結果、大型のナマコは多いものの、今後成長して漁獲対象となる小型個体は少ないことが分かりました。また、これまでの知見と併せて解析し、再来年以降も持続的な漁獲を可能とする最大の漁獲量を10トンと見積もりました。

そこで、11月18日の宮津なまこ組合総会において、当センターから、前漁期の漁獲量は16トンだったが、今期は漁獲量が10トンになった時点で漁期を終了してはどうかと提案しました。提案を受けた漁業者は、その後2日間に渡って熱い議論を行い、当所の提案は採択されました。漁業者にとっては漁獲を控えるというのは大きな痛みを伴う決断ですが、正確なデータの積み重ねと科学的な解析への信頼の結果と受け止めています。この信頼関係を維持し、宮津湾のナマコ漁業が今後も持続的に営まれるよう調査を続けます。



海洋センターからの提案 (スライドの一部を抜粋)